



はっしん！ 新青森



青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

2024 年 12 月 20 日 (金)
第 62 号 【FREE】

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

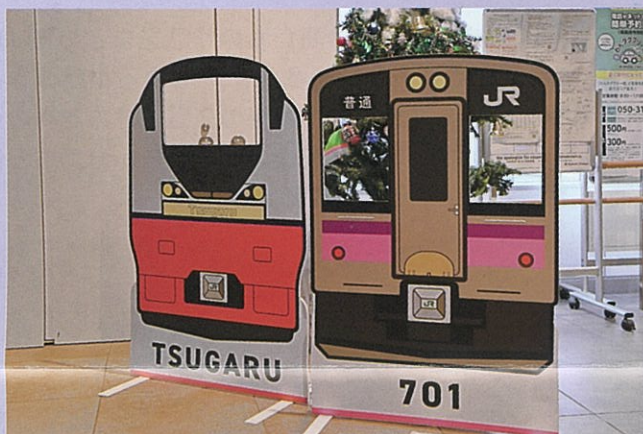
弘前 奥羽本線開業 130 周年 青森

新青森駅 県内の玄関口に

奥羽本線の青森—弘前間が 12 月 1 日、開業 130 周年を迎えました。青森駅では特急「つがる」の E751 系列車と、701 系電車の「顔出しボード」が設置され、「130 周年」と描かれた記念ボードが飾られています。開業当時、6 つだったこの区間の駅は、今は 10 まで増え、最も新しい新青森駅は東北新幹線の終点、そして北海道新幹線の起点として、県内で最も重要な駅の一つになっています。

青森駅「顔出しボード」設置

奥羽本線は全長 484.5km、福島駅（福島市）と青森駅を日本海側経由で結ぶ路線です。青森—弘前間は最も



早く 1894（明治 27）年 12 月 1 日に開業しました。1905 年 9 月 14 日には全線開通にこぎ着けています。

現在は、福島—新庄（山形県新庄市）はミニ新幹線の山形新幹線、大曲（秋田県大仙市）—秋田間は同じく秋田新幹線が走っており、全区間を通して走る列車はありません。

青森市民図書館歴史資料室が発行しているメールマガジン「あomor歴史トリビア」の 2015 年 8 月 28 日号「奥羽線全線開通 110 周年」によると、西津軽郡や北津軽郡から現在の五所川原市東部を経由する西寄りルートと、南津軽郡から現在の黒石市を経由する東寄りのルートの希望があり、間を取る形で現在のルートに決まったといいます。



開業と同時に新城（現・津軽新城）、大釈迦、浪岡、川部、弘前の 5 駅が誕生し、青森—弘前間の所要時間は約 1 時間半、当初は 1 日 3 往復の運転だったそうです。

その後、北常盤、鶴ヶ坂、撫牛子の各駅が開設され、1986（昭和 61）年には新青森駅が設置されました。当時、青森市内では東北新幹線の建設を求める声が高まっていましたが、着工のめどが立たず、地元の不満を押さえる狙いがあったとされます。

それから 24 年後の 2010（平成 22）年 12 月 4 日、東北新幹線が開業し、新青森駅は青森県の玄関口の一つとなりました。

青森—弘前間は 2023 年 5 月に Suica が使えるようになり、利便性が向上しました。



青森県立青森西高校の「青西おもてなし隊」の生徒たちが 10 月 18 日、交流のある北海道長万部町の長万部高校を初めて訪問したことは、当ニュースレター第 60 号（11 月 20 日発行）でお知らせしました。今号では、引き続き町内で、北海道新幹線建設などについて学んだ様子を紹介します。



訪問には 1 年の兼平羽橋さん、宮本悠嗣さん、新谷好花さんが参加し、顧問の清野耕司教諭、成田由希教諭が引率しました。

一行は長万部町役場新幹線推進課の岸上尚生課長らの案内で、町営共立牧場を経由し、草を食べる乳牛を見て「北海道らしい！」と歓声を上げながら、町を見下ろす



地元のシンボル・写万部山（地元では写万岳とも、499.1m）の登山口に整備された広場へ。街並みと噴火湾を眺め、長万部町の地勢を確認しました。

続いて、町内の各所で進む北海道新幹線の工事の現場を車窓越しに見学しました。新幹線駅が建設される長万部駅前では、鉄道・運輸機構長万部建設事務所の担当者から北海道新幹線の概要の説明を受け、新函館北斗—札幌間・約 212km の 8 割がトンネルになること、地上を走る区間の多くを長万部駅付近が占めることなどを学びました。

長万部駅は、同駅と札幌方面を結ぶ在来線・室蘭本線と北海道新幹線の乗換駅になります。新幹線駅の「ホーム 2 面・線路 4 線」の構造と乗換駅としての役割が、



新青森駅に似ていることから、長万部高校生が 2021 年から 2023 年にかけて、新青森駅や青森市を視察してきました。

北海道新幹線が札幌まで延伸すれば、新青森駅と長万部駅は 1 時間半ほどで結ばれ、現行の約 2 時間半から大幅に短縮されます。

★写真①は長万部駅前で鉄道・運輸機構の担当者から北海道新幹線の概要説明を受ける、おもてなし隊の生徒たち。写真②は新幹線駅に生まれ変わる長万部駅。写真③は地元のシンボル・写万岳。写真④は北海道新幹線の工事が進む長万部駅構内

関野準一郎、小館善四郎と仲間たちの軌跡

青森県立美術館

特集展示「昭和の初めの学び舎から」

青森県立美術館で2月16日まで、コレクション展の特集展示「昭和の初めの学び舎から」が開かれています。青森市の旧制青森中学校（現・青森高校）に学んだ同世代の画家や版画家の足跡に焦点を当て、切磋琢磨しながら、才能を開花させ、あるいは惜しくも早逝した人々の息づかいを伝えています。

◇

特集展示は画家・小館善四郎と版画家・関野準一郎が2024年、生誕110周年を迎えたことにちなんで企画されました。小館は青森中学校在学中から油彩画を手掛け、やがてレモンを題材にしたり静物画に書き添えたりする独自の作品世界をつくり上げて「レモンの画家」と呼ばれました。関野も在学中から版画制作を始め、後に、浮世絵の伝統を生かした風景や棟方志功、淡谷のり子などの肖像で広く親しまれました。

2人と同学年には根市良三、柿崎卓治、佐藤米次郎、福島常作、そして1年上には松下千春という仲間がいて、



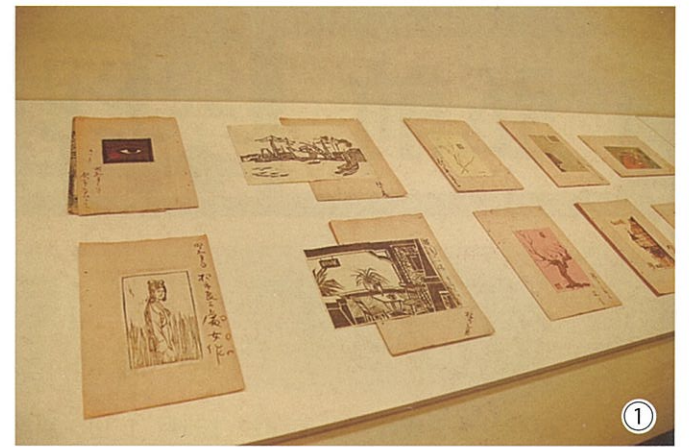
全国的なブームとなっていた創作版画誌を制作し、若者たちによるみずみずしい版画の文化を本州北端に花開かせました。

時を経て、根市と柿崎は1947年に地元で病のため、また、松下は召集された後に抑留されたソ連（当時）のシベリアで1946年に命を落とします。佐藤は県庁職員を経て地元の新聞社・東奥日報社に勤め、社の業務として美術に関わりながら、創作を続けました。福島は県庁に勤務して文化行政に携わる傍ら、版画集や歌集、随筆を世に送りしました。

同じ学び舎で縁のつながった若者たちが、1920年代から30年代、互いに刺激を受け、学び合いながら、今なお光を放つ作品を作り上げていた様子が、展示から伝わってきます。

展示された約100点は、同館のほか、青森県立郷土館、青森市教育委員会の所蔵作品です。企画を担当した美術企画課の菅野晶課長は「特に根市や柿崎、松下の作品をまとめて見る機会はほとんどありませんでした。昭和の初めの息づかいと、彼らの才能を感じ取っていただければ」と話しています。

入場料は一般700円、大学生400円、高校生以下は無料。期間中の休館日は12月23日、26～31日、1月1日、14日、27日、2月10日です。



★写真①は柿崎が自作と仲間たちの作品をまとめた「版画帖」。写真②はレモンが印象的に登場する小館の作品群。写真③④は関野が描いた同郷の先輩・棟方志功の版画の摺り重ね見本と版木。制作のプロセスが分かると同時に、ポップアートの趣がある展示に

復元建物を守る「燠煙」 縄文の光景を再現、

特別史跡・三内丸山遺跡には、ムラを復元した多くの建物があります。これらの建物には毎年、「燠煙」という作業を行います。建物から上がる煙は、当時の人々が



暖を取ったり煮炊きしたりした光景を思い起こさせます。

燠煙は、建物に薪を燃やしてつくった煙を送り込んで「いぶす」作業です。防菌、防虫、さらにはカビも防ぐ効果があるそうです。11月12～13日には、今年最後となる3回目の作業が行われました。

トラックの荷台に載せた巨大な薪ストーブ状の装置



を使い、ダクトで煙を竪穴建物や掘立柱建物に送り込みます。作業を担当する株式会社茅葺屋根保存協会（栃木県下野市）によると、小さな建物は1時間半で薪2束（約15キロ）、大きな建物は2時間で3束ほど使うそうです。

燠煙作業の日程は、三内丸山遺跡のホームページやSNSでも確認できます。まだ、ご覧になっていない方は、来年はぜひどうぞ。

見学時間 9:00～17:00（入場は開館の30分前まで）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／中学生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット提示で割引特典あり。（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>



三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術
三内丸山遺跡センター ルートマップ 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
年末年始（12月26日～1月1日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります
観覧料 一般700円（560円）／大学生400円（320円）／高校生以下 無料

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>



新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分、徒歩約40分

Facebook ページ
Instagram アカウント
＜ネット情報＞
Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。
☆このニュースレターは、青森大学社会学部・榎引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部
榎引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

